

第 18 回議会報告会 報告書

地域名	三谷地域		
年月日	平成 30 年 10 月 26 日 (金)	会場名	三谷多目的集会センター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参加数	男性 23 人	女性 11 人	合計 34 人
班 長	田路 之雄	司会者	田路 之雄
報告者	田村 和也	書記	西谷 昭徳
班員名	田路 之雄、田村 和也、西谷 昭徳、深澤 巧		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① 新文化会館の建設費が増大している。原因は何か。予定より大きな用地の取得に目的が定まっているのか。 なし崩し的に費用の増加になるのではないのか。変更理由を明確にチェックしてほしい。</p>	<p>① 当初 35 億円と額が示されていた。用地の購入費の増額、建設資材の高騰などが原因である。敷地用途や事業費については反対も含め議論した。</p>	
意見交換会での質疑	<p>① 避難所で毛布などの備蓄があればよいが管理が大変である。マットみたいなものは用意できないか。 船谷から避難場所の建屋小へ移動するのは現実的ではない。避難のあり方について議会も精査してほしい。</p> <p>② 市の財政はおおよそどの程度の見通しなのか。</p> <p>③ 農業特区の今後の見通しはどうか。特区の成果について市民に実感が無いのではないのか。</p>	<p>① 緊急避難と避難生活をする避難所との区分けが必要である。 現実の災害状況と避難のありかたや対応について、地域に応じた細やかな住民説明が必要である。</p> <p>② 財政調整基金は 50 億円を超える備えになったが市税は 20 億円少しである。財政力指数は県下で最も低い。 人口減少や地域経済の減退を止めなければ楽観はできない。八鹿病院の経営などの財政負担も心配である。</p> <p>③ 規制改革の先例地域となり、政権中枢では高い評価を受けている。能座での事業展開などあるが、雇用創出など具体的な成果を市民全体に示していく段階になっている。</p>	

その他（提言など）	<p>① 市森林組合が約束した作業道の開設が遅れている。生産森林組合の維持も困難になっている。</p> <p>② 報告会は質問を受けるだけでなく、市内での地域活性化の好事例などを教えてほしい。 空き家バンクなどの対応に市の職員は熱心に頑張っている。議員も評価された。</p>	<p>① 市森林組合は作業班が人道的に縮小しているようだ。山の経済的価値が低くなり、生産森林組合の存在価値がなくなっているのが現状である。</p> <p>② 旧大屋町が過疎債で整備した産業支援工場が払下げされ、さっそく工場拡張された企業がある。10年、15年の先を見越した公共投資の成果がでている。 移住担当のやぶぐらし課の実績は高く評価している。</p>
備考 なし		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

平成30年11月2日

報告者 3班 班長 田路 之雄

